

子供の様子に着目したお話会のための絵本選択支援の研究

今満 亨崇

現在、集団に対して絵本の読み聞かせをするお話会が図書館や小学校など様々な場所で行われている。しかしながら、お話会の読み手の多くはボランティアであり、大量に存在する絵本の中から、読み聞かせに使用する絵本を選択するのが困難であるという問題がある。このような問題に対して、従来から良書を選定したとされる絵本のリストが存在しているが、現在出版されている絵本のリストは、内容紹介がほとんどであり、お話会の成功に影響を与える他の要因について言及されているものは少ない。そのため、実際に読み聞かせを行った結果、成功するかどうか判断ができないという問題が残る。

そこで本研究では、子供の様子に着目した絵本リストを作成し、これを利用して子供の様子がお話会の絵本選択の際どのように参考になるかを明らかにすることを目的とする。子供の様子に着目したのは、事前に子供の様子が予測できると、子供が飽きてしまいやすい絵本を避けたりするなど、お話会の計画を立てやすくなると考えたためである。

作成した子供の様子付き絵本リストは「書誌事項」「絵本の紹介文」「子供の様子」から構成されており、「書誌事項」と「絵本の紹介文」は既存の絵本リストから、「子供の様子」は図書館やボランティア団体が作成しているお話会の記録から抽出した。お話会の記録とは、読み聞かせを行っている図書館やボランティア団体が、お話会で読んだ絵本と感想を記録したものである。今回絵本リスト作成に使った記録は、2団体 1,709 回分のお話会の記録であり、1,733 冊の絵本が子供の様子と対応付けられた。これを、既存の絵本リストに掲載されている 969 冊分の絵本と対応付けを行い、96 冊分の子供の様子付き絵本リストを作成した。

作成した絵本リストを利用して、絵本選択における子供の様子の効果を検証する実験を行った。被験者は小学校や図書館でお話会を行っているボランティア 10 名とし、作成した絵本リストを見ながらお話会に使用する絵本の候補を挙げてもらった。その際、候補に挙げる根拠とした情報に下線を引いてもらい、被験者が参考にする情報を明らかにした。

実験の結果、絵本選択のために参照された情報は「絵本の紹介文」が 54.5%、「子供の様子」が 34.5%であった。絵本の内容を見ずに絵本の選択はしにくい事を考えると、「子供の様子」が絵本選択の際にある程度参考になったと考えられる。さらに、事前に内容を知らなかった絵本だけについてみると、「子供の様子」は 41.2%参考にされており、より効果が大きいことが分かった。

本研究により、子供の様子を用いることで読み手の絵本選択支援の可能性が示された。今後の課題としては、子供の様子を抽出する際の方法を再検討し客観性の高い抽出方法を明らかにすることと、効率よく絵本と子供の様子を対応付ける方法を検討することである。

(指導教員 松村敦)